

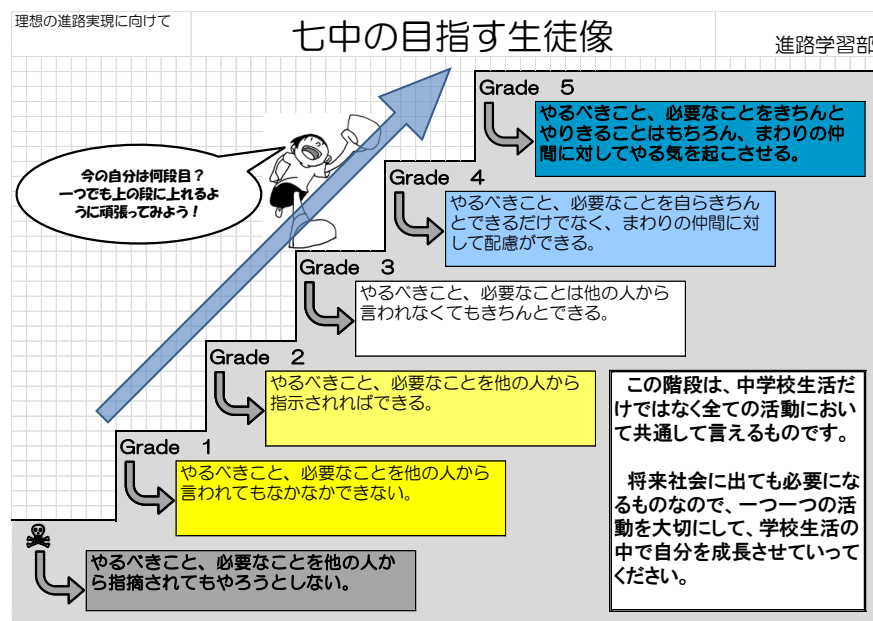
未来へ

おおさわ学園
三鷹市立第七中学校
第3学年 進路だより
No.4 2018.5.7
校長 勝野 能光
進路指導主任 木村智佐子



幸せをつかむための「目指す生徒像」

昨年から教室に掲示されている「七中の目指す生徒像」。先日の全校集会でも沖山先生からお話がありました。今、あなたはGradeいくつですか？この表の左肩には「理想の進路実現に向けて」とあるのには気づいていましたか。Grade 5まで行けば、社会生活でも成功者になれるはず。人に囲まれ、幸せな生活を送ることができるのだと思うます。まだ、Grade2あたりでくすぶっている人はいませんか。上の段、上の段を目指していきましょう。



七中の推薦基準 推薦者の認定について

高校や専修学校等の入試において、学校長（七中の校長先生）による推薦制度があります。その学校が第一志望であり、合格したら必ず入学することが前提です。

推薦入試に当たっては、人物、学力、出欠席の状況、中学校の活動状況などが条件とされます。具体的には以下の通りです。

①人物が優秀であることとは

中学校3年間の生徒の成長を見て、校長先生や先生方が「この生徒はしっかりと取り組んでいるので、推薦の趣旨（目的や理由など）を理解し努力し、高校進学後も同じような姿勢で続けられる。」と判断できる生徒が該当します。そのための基本となる判断条件（できていないと困ること）には以下のようなことが挙げられます。

○学校生活にあたり、欠席や遅刻が少ない、チャイム着席ができている、時間を守るなどの基本的なことができている。（病気、怪我等の理由がある場合は考慮される。）

○制服の着こなし（スカートの長さ、靴下、ボタン等）や頭髮等の身だしなみがきちんとしており、不要物を持ち込まない等の校則を守っている。

○人に対して、被害を与えたり、困らせたりするような行為をしていない。

○集団生活をするうえで、他の人のことを考えた行動ができている。

○授業はもちろんその他の諸活動にしっかりと取り組んでいる。

②私立高校の推薦について

私立高校については、さらに学習の成果について具体的な数値基準が提示されるので、その基準に合うことが条件になります。また、欠席日数や遅刻についても具体的な回数・日数が上限として提示される場合が多くあります。

例 ・A高校 推薦 9科29

併願優遇 9科31

※9科の評定に1は不可。3年次の欠席5日以内。

・B高校 推薦 5科22

併願優遇 5科22かつ9科38

※評定に1, 2は不可。欠席・遅刻・早退それぞれが各学年で5日以内。

③活動状況とは

委員会活動、部活動、行事などに関すること。各種検定（漢検・英検など）の取得が有利な条件になる私立高校もあります。

④合格発表後も他の生徒の見本となる学校生活を（七中在学中及び進学先でも）送れる生徒であること。



推薦受験希望者については、七中の先生方全員で検討し、最終的に校長先生の認定を受けた生徒が推薦制度を利用できます。（推薦者認定式を行います。）併願優遇制度を利用する場合も、この条件に準じます。

さて、自分の今までを振り返ってみてください。そして、これから改善できる点があれば、今からでも改善していくことです。

2階の教室で生活する3年生であるということ

職員室前の廊下で先生たちとすれ違ったときに、「こんにちは」と自分から挨拶できるのは、もちろん1, 2年生に比べて3年生が圧倒的に多い。ただ、それが100%かということ、残念ながらそうではない。

校舎の2階は職員・来客用の玄関がある。さらに主事室、事務室、職員室、校長室、会議室と並び、進路情報室は、CS委員の方も使う部屋だ。つまり、大人・お客様と出会うことが多いのが2階。だから、七中の顔である3年生が2階にいる。外部の方が七中を訪れた時、出会った生徒に「こんにちは！」と明るく挨拶をされたら、どんなに安心して気持ちがいいか。

これからいろいろな高校の先生もいらっしゃる。もしかしたら自分がいずれ受験する高校の先生かもしれない。第一印象は良いほうがいいに決まっている。

もちろん挨拶だけではない。玄関の目の前は数学室。授業の声は玄関のみならず職員室にも聞こえてくる。休み時間に廊下で騒いでいる声もしかり。授業に熱心に取り組んでいる声、仲のよさそうな楽しい声はいい。「意識する」「わきまえる」ことを忘れずに生活してほしい。

♥今日という日は、残りの人生の最初の日。

（アメリカ映画「アメリカン・ビューティー」より）

★進路便りは必ずその日のうちに保護者に渡し、内容について話し合ったり情報を交換したりした後、家庭で保管してください。